



苗雲

大口高校だより



鹿児島県立
大口高等学校

〒895-2511 伊佐市大口里 2670
TEL 0995-22-1441 FAX 0995-22-9227

生徒会長選挙速報!

9月14日、次期生徒会長の選挙が行われました。伊佐市選挙管理委員会と明るい選挙推進協議会の協力で、実際の公職選挙で使用する投票箱と記載台を利用し、全校生徒による選挙を実施しました。開票の結果、体育祭の復活などの公約を掲げた2年生の中渡旭望さんが生徒会長に選出されました。

副会長以下の役員も全員決まりましたら、本紙11月号で詳しく紹介します。



Hello JOSHUA!

このたび、イギリスから新しいALTが赴任されました。チャーチル・ジョシュア・ウィリアムさんで、イングランドの南部のワイト島出身の25歳です。

水泳が得意なスポーツマンで、映像などの分野も詳しいそうです。英語だけでなく、イギリスの文化や風土についても、いろいろと教えてもらいましょう。

まずは、気軽に話しかけることから始めましょう。



合同模擬面接会

9月7日、大口ロータリークラブの協力を得て、伊佐農林高校で就職試験のための模擬面接会が開かれました。今年は、県教育委員会の「小規模校サポート事業」の一環で、本校からも就職希望の3年生7人が参加しました。

参加した生徒は、「学校でも何度も面接練習をしているが、全く面識のない面接官だと、とても緊張した。」「この経験を本番で生かしていきたい。」などと感想を述べていました。



先輩方の“熱い想い”

昭和57年に卒業された旧3年5組の皆様が、お盆に同窓会を開いたのをきっかけに、「学校の活性化のために」と寄付金を贈ってくださいました。

同窓会当日は、「卒業以来初めて母校を訪問した」という方もおられ、懐かしそうに教室や体育館を見て回られました。

学校から感謝の気持ちを伝えるため、9月5日に吉満校長が幹事の川口浩一さんへ感謝状を贈呈しました。



地域の夏祭りに参加

8月19日、曾木校区夏祭りに大口高校の生徒が「大口高校米(マイ)クッキー」の販売で参加しました。途中、司会者からステージでの挨拶を求められ、吉満校長と溝口葉菜さん・池下愛姫さんの3人で大口高校のPRとクッキーの紹介をしました。その甲斐あって、準備したクッキーは見事完売しました。

主催者からは、「大口高校が地域の夏祭りにこのような形で参加していただくのは大変ありがたい。これからも地域に愛される地元の高校であって欲しい。」とお礼の言葉をいただきました。



『環境文化の聞き書き』

鹿児島県自然保護課が主催する「令和5年度環境文化の聞き書き事業」に、3年生の中隈春輝さん、田中大稀さん、今吉菜緒さんの3人が挑戦しています。

「金山の恩恵と公害対策」をテーマに、9月18日には南九州郷土研究会の別府晋一郎さんを講師に牛尾川の取水口や湯之尾温泉の給湯施設等を見学しました。その後、菱刈郷土資料館で聞き取り調査を行いました。報告書は年度末に完成予定で、Webサイトでも公開されます。



特別国民体育大会いよいよ開催!

いよいよ国体が開催されます。大口高校は、10月13日(金)から16日(月)の4日間、湧水町で行われるカヌー競技(スラローム・ワイルドウォーター)の競技補助を1年生全員で行います。大会には、来年「国民スポーツ大会」が開催される佐賀県の神埼高校からも大勢の生徒が競技補助員として参加します。大会前日には、神埼高校と大口高校のスポーツ交流会を計画しています。

「大口高校ふるさと歴史講座」報告 その2



【第3回目】8月10(木)18:00~20:00

講師：橋口 拓也 先生
(曾於市教育委員会生涯学習課文化財係主任)

橋口先生は、曾於市で様々な遺跡の発掘を手がける新進気鋭の研究者です。横川町の出身で、横川中学校から大口高校に進学し、別府大学史学科で考古学を学び、卒業後は県立埋蔵文化財センターでの勤務を経て、現在は曾於市教育委員会文化財を担当しています。



テーマ：「伊佐の古墳（大和の古墳と隼人の古墳）」

「古墳」とは、土を盛り上げて作った古い墓という意味です。しかし、土を盛って作った古墳＝高塚古墳は、もともと大和朝廷の墓制で、全国に分布しているのは大和朝廷の勢力が全国に広がっていったことを意味しています。それに対して、鹿児島県内に見られる地下式の古墳は、南九州に住んでいたいわゆる隼人の古墳とも言えます。

特に伊佐地方に特徴的なのが地下式板石積石室墓で、昭和21年に寺師見国らによって焼山古墳が調査され、昭和45年頃には大口南中学校の建設に伴う調査で90基以上の石室墓が発見されました。そのうちの一基が大口高校の前庭に移され、現在に至っています。その他、伊佐市内からは地下式横穴墓も含めて多くの古墳が発見・調査されています。そして、そのほとんどが群集墓という特徴が見られます。



【第4回目】8月17日(木)18:00~20:00

講師：中村 直子 先生
(鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長・教授)

中村直子先生は、大口高校2年生の文化祭のクラス展示で、地元の遺跡などを調べてまとめたのが考古学に関心を持つきっかけになったとのこと。その後、鹿児島大学で考古学を専門的に学び、現在に至っているとのこと。



テーマ：「岡野窯跡群を通して見る平安時代の伊佐」

まず、須恵器とは、登り窯などを使用して1,000度以上の高温で焼いた青灰色の色調を持つ朝鮮半島伝来の磁器です。須恵器の生産に必要な条件として、窯に適した地質の粘土があること、燃料とするための豊かな森林資源があること、生産に必要な水が確保できること、加えて製品を運搬するに適した土地であることなどが考えられますが、岡野窯跡はそれに該当します。九州各地に点在する須恵器の窯跡を見てみると、九州西部は地下式構造（のぼり窯的地下方式）が多く、九州東部は半地下式構造（平窯的なもの）が多い傾向にあります。岡野窯群は人吉（下り山窯群跡）との類似性が強く、肥後地方からの入植が考えられます。

なお、岡野窯跡群産の須恵器が出土する遺跡は、例えば薩摩川内市の西ノ平遺跡や湧水町の山崎B遺跡など、多くの建物や越州窯系青磁なども出土しており、一般的な集落ではなく役所があったと考えられます。



【第5回目】8月22日(火)18:00~20:00

講師：湯場崎 辰巳 先生
(上野原縄文の森文化財専門員)

湯場崎先生は、令和元年に県立埋蔵文化財センターが高熊山激戦地の調査をした際の担当者です。翌年、報告書をまとめられた後、調査の成果を大口高校の生徒たちに分かりやすく講義してくれました。

今回は、その内容を市民の皆様を対象に話していただきました。



テーマ：「高熊山激戦地の調査から見える西南戦争」

明治10年4月下旬、熊本から撤退した西郷軍は人吉に本営を置き、南九州を視野に戦争を展開していました。特に大口は人吉・出水・鹿児島・宮崎を結ぶ交通の要所で、ここを巡って官軍との間で激しい攻防戦が繰り広げられました。池辺吉十郎率いる熊本隊と辺見十郎率いる電撃隊は高熊山と向かいの坊主石山に立て籠もり官軍と激戦を行いました。6月20日官軍によって占領されました。

高熊山の山頂には9基の堡壘跡が残っており、そのうち最大の堡壘は長さ11m・幅6mにもなります。官軍が攻撃してきたと考えられる北東から東側斜面には銃弾16個と薬莖4個が発見されました。なお、高熊山古戦場は、伊佐市の指定文化財になっていましたが、今回の調査を踏まえ令和4年に県指定史跡に指定されました。